

① 学習指導案

プログラム	No.7「看板からまちの風景を考える」
单元名 (全19時間)	サプライズピクチャーでまちのみんなを笑顔にしよう！
学習のねらい	自分たちが描いた3D アートでまちの人を笑顔にしたいという願いの実現のために、3D アートを制作し、まちに飾る活動を通して、自分たちが3D アートに込めた思いを様々な形で表現しながら、まちの人とのかかわり方について考え、3D アートがもつ様々な特徴や技法を生かすことで人々を笑顔にできることに気づき、まちの一員としてまちのためにできることを考え、取り組もうとする。
学習内容	1 フォトスポットにできそうなまちの景観を探し、素材を集める。 2 区役所のWさんにフォトスポット設置の相談をしに行き、設置場所を決める。また、素材集めをもとにクラスでアイデアを話し合い、デザインを決定する。 3 決定したデザインをもとにグループに分かれ、下描きをする。その間、アートの達人にアドバイスをもらう。 4 ベニヤ板に自分たちで考えたまちの景観のデザインを表現する。 5 区役所庁舎1階に自分たちで制作した作品を展示し、まちの人にフォトスポットを楽しんでもらう。
参考資料 準備品 実施場所等	資料：・株式会社S・D 出版書籍（作品集） 準備品：・ジェッソ（下地材） ・ベニヤ板（針葉樹版）2枚 ・ローラー ・アクリル絵の具（5色） ・水性ニス）（半つり） ・絵筆 ・はけ 実施場所：横浜市栄区役所 新館1階スペース


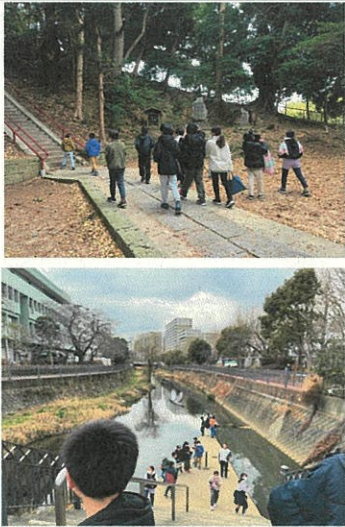


学習の流れ


時間	学習活動	教師の指導	評価
1	まちへのフォトスポットづくりのめあてを確認し、本郷台のまちの景観といえば何を思い浮かべるか話し合う。	12月までに行ってきた、学校50周年をお祝いするフォトスポットを振り返りながら話し合うことが出来るよう、板書の写真を掲示しておく。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 振り返りの記述 <input type="checkbox"/> 話し合いでの発言
2	思い浮かべたまちの景観をもとに、フォトスポットにできそうな景観をみんなで歩いて探す。	事前に探索のルートを考えておき、計画的に回れるようにする。一人一台端末を持参し、要所でイメージをつかむために写真を撮るようにする。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 振り返りの記述

2	フォトスポットの概要をクラスで確認し、区役所のWさんにデザインや設置場所の相談をする。	Wさんとは、区役所庁舎内のスペースに展示出来るよう事前に教師が打合せを行っておく。 活動の概要を話す担当、区のキャラクターの使用許可について相談する担当に分かれ、内容を考え、Wさんとかかわるための準備を行う。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 振り返りの記述
2	グループに分かれ、フォトスポットにする候補の景観をデザイン化し、複数のデザインの候補から話し合いをして、2つに決定する。	判断基準をあらかじめ共有しておき、互いのグループのデザインのよいところを見つけ合って、よりよいものを選択できるようにする。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 振り返りの記述
7	制作班と活動報告・会場設置班に分かれ、準備を進める。	制作班は、下描き段階で達人からのアドバイスを受けられるようにする。 動報告・会場設置班は、どうすれば見る人にまちの景観のよさを伝えられるようなフォトスポット展示になるか考え、話し合う。また、Wさんに自分たちのアイデアを伝え、展示当日に向けた打合わせを行う。	<input type="checkbox"/> 行動観察
2	完成した作品と周囲の掲示物を設置しに行く。	協力してくれる事務職員のYさんや区役所のみなさんに、感謝の気持ちをもって行動できるよう、事前に声をかけておく。	<input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 振り返りの記述
2	2週間の展示期間を設けた後、撤収をしに行く。その際、区役所の皆さんへの感謝の気持ちを伝える機会を設ける。	アンケートボックスを設置しておき、フォトスポットを通して感じたことや、自分たちの思いが伝わったか確認できるようにする。	<input type="checkbox"/> 行動観察
1	活動全体を通じた振り返り。	「まちとかかわりながら活動してきた気付いたこと、自分たちに身に付いた力」「自分たちの活動のめあては達成できたか」の2視点をもとに振り返るように声をかける。	<input type="checkbox"/> 振り返りの記述 <input type="checkbox"/> 話し合いでの発言

③ 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立本郷台小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	まちへのフォトスポットづくりのめあてを確認し、本郷台のまちの景観といえは何を思い浮かべるか話し合う。		春日神社、駅前広場、いたち川、マスコットのタッチーくんが候補になりそうだ。
2	学区	思い浮かべたまちの景観をもとに、フォトスポットにできそうな景観をみんなで歩いて探す。		春日神社には、龍の彫刻があったから、これはデザインに入れられそうだ。いたち川も自然の中でまちの人が生活していることが確認できた。
2	区役所	フォトスポットの概要をクラスで確認し、区役所のWさんにデザインや設置場所の相談をする。		どこに設置すれば多くの人に見てもらえるか考え、相談しよう。
2	教室	グループに分かれ、フォトスポットにする候補の景観をデザイン化し、複数のデザインの候補から話し合いをして、2つに決定する。		①見る人が驚くような絵が描けたか ②まちの景観を面白く表現できたかの2点で話し合い、判断しよう。

7	教室	制作班と活動報告・会場設置班に分かれ、準備を進める。	  	決まった下描きをもとに制作を進めよう。途中で達人に影の付け方のアドバイスをもらうためにzoomで聞きたいな。自分たちの作品をより楽しんでもらえるような掲示物を考えて、作ろう。
2	区役所	完成した作品と周囲の掲示物を設置しに行く。		設置をするときに挨拶をしよう。作業を終えたら区役所の方が楽しんでくれた。
2	区役所	2週間の展示期間を設けた後、撤収をしに行く。		区役所の若林さんの協力なしでこの活動は実現しなかったことに気付いた。
1	教室	活動全体を通した振り返り。		皆で協力する大切さ、支えてくれる人の存在に気付いた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

普段目になっているまちの風景を、「フォトスポットの絵にしたらどうなるだろう」という視点でみることができるよう、まちの散策の時間を確保した。また、デザインを決める際には視点を絞り、お互いのデザインのよいところを認め合った上で、「フォトスポットとして面白さが伝わるか」という理由をもって決めることができるように声掛けをした。また、まちに自分たちの作品を飾るには、必要な手順があることを知り、自分たちの活動を支えてくれる存在に気付いてほしいと考え、区役所の総務課の若林さんとのかかわりを意図的に複数回設けた。

(2) 実施にあたり苦労した点

区役所とのかかわりや、まちの散策、クラスの話合いの時間を除いては、制作班と活動報告班に分担して活動を進めた。達人とのかかわりの場面では分担に関わらずに全体の場としたいと考え、zoomの時間は全員参加とした。しかし、制作班以外の児童には必要感が足りず、よい学びの機会とはならなかった。時数や制作可能な作品の数に限りがあったため分担としたが、全員で制作、全員で活動報告や装飾づくりという形にしなければならなかったと振り返る。

(3) 児童の反応

「自分たちの思いを絵にして、それをみたまちの人が楽しんでくれることがこの活動のよさだ。」と振り返りの話合いで出た。この活動のめあては、「まちの人が思わず立ち止まって楽しんでもらえるようなフォトスポットをつくろう」であった。そのめあての達成を目指し、自分たちで実際に足を運び、考え、話合い、制作・準備し、区役所をお願いをしに行った経験を通して、気付いたことであると考えた。

支えてくれる人の存在に気付く児童も多くいた。活動中、自分たちで実現するぞという気持ちとみんなのために時間を使ってくれる人がいることのどちらも大切にできるように声をかけてきた。区役所の方をはじめ、学校の校長先生や技術員、事務職員と、協力してもらった経験をもとに具体的に話すことができた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

活動の振り返りの際、子どもたちから「制作の活動が楽しかった」ではなく、「活動を通して、支えてくれる人の存在に気付いた」という話が出た。子どもたちの成長が感じられ、教師としても喜びを感じた。

(5) 今後の課題と取り組み (児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

まちの方とのかかわりの場面をもっと設け、まちの人の声を受け止め、分析し、フォトスポットづくりの活動を高められるような学習を実現できたのではないかと考える。